

# 他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

読むこと部 研究主題

自立した学習者を育てる読むことの指導

## 第6学年国語科学習指導案

### 単元名 物語の卒業旅行 「海の命」からメッセージを受け取ろう ～読みの計画を立て物語の世界をとらえて～

学習材名「海の命」（光村図書出版 6年）

日時：令和8年1月29日（木）5校時  
児童：府中市立小柳小学校  
第6学年2組 33名  
指導者：山崎 龍一

#### 1 単元の目標

- 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 [知識及び技能] (1)ク
- 登場人物（太一）自身の行動や様子を表す描写や情景描写、登場人物と関係する人物との相互関係などを関係付けながら、物語の全体像を具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力] (1)エ
- 文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げることができる。 [思考力、判断力、表現力] (1)カ
- 物語の全体像について、場面の移り変わりと結び付けながら、すすんで具体的に想像し、自分で立てた学習計画に沿って読み、まとめた意見を伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

#### 2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 瀬の主を表す比喻表現や、太一が瀬の主と対峙している場面を表す言葉や文などから、比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク	① 「読むこと」において、作品の全体像を捉えるために、人物の心情の移り変わりや性格などの手がかりとなる叙述や、具体的に作品を想像する読み方を関係付けて学習計画を立てている。 (C(1)エ) ② 「読むこと」において、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方を捉えたり、場面設定や場面の移り変わりを捉えたりして、物語の全体像を具体的に想像している。 (C(1)エ) ③ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを整理して表現したり、広げたりしている。 (C(1)カ)	① 物語の全体像について、場面の移り変わりと結び付けながら、すすんで具体的に想像し、自分で立てた学習計画に沿って読み、まとめた意見を伝え合おうとしている。

### 3 単元構想

#### (1) 児童について（児童観）

本学級の児童は、文学的文章の学習では、主体的に取り組めるように以下のように取り組んでいる。

- ①初読後、印象に残ったことから内容の大体を捉える。
- ②一人一人が疑問やみんなで話し合いたいこと(文章全体から読み取ったり、考えたりできるもの)を考える。
- ③学級で学習課題（作品全体に関わり、学級全体で話し合いたいもの）を設定する。
- ④学習計画を立てる。

「読み方」※1→「手がかり」※2→「まとめ方」※3の決定

- ⑤自分で立てた計画に沿って読み進める。

※読み進める中で、計画を修正したり解決したい疑問を足したりするなど、自身の学びを調整する。

読み取りの際は、作品全体を俯瞰して読み、気付いたことを書き込めるようにした全文シートを用いて学習している。

4月に学習した「帰り道」では、登場人物である律と周也の二人の視点で書かれていることから、明らかにできるお互いの見方や関係性について、描かれている視点や作品の構成に着目して読み、印象に残ったことを伝え合う学習活動を行った。登場人物の相互関係や心情について叙述を基に捉えるために、登場人物の行動や会話、気持ちが表されている叙述などに着目して、作品全体を俯瞰して読む学習に取り組んだ。二人の視点から描かれていることによって、それぞれの人物の性格や見方が異なることが、すれ違いのような関係になっていたのではないかと考える姿が見られ、心情を想像することで、相互関係を捉えることにつながっていった。読んで分かったことや想像したことは、心情曲線や時系列などに整理してまとめた。また、それぞれの登場人物の性格や人となりなどについて考えていくことで、結果的に人物像を具体的に想像することにつながっている児童も6割ほど見られた。

2学期に学習した「やまなし」では、宮沢賢治特有の比喩や色彩を表す表現などが読み手に与える効果について考えた。児童が表現の効果に対する自分の考えを明らかにしたり、作者の考え方・生き方から作品世界について捉えたりするために、一人一人の疑問やみんなで話し合いたいことを基に、表現に着目して物語や資料を読み、宮沢賢治の世界観について考え、交流を行った。「五月」と「十二月」に出てくるものや表現の違いについて対比させて考えたり、物語に出てくる表現の別の意味について考えたりする児童の姿が見られた。特に「かぶかぶ、トブン、ぼかぼか」などの表現は、声を出すことで想像を膨らませたり、他にどんな場面でこの言葉が当てはまるのか、考えたりすることで、物語の世界に浸ることができた。多彩な表現は、読み手を物語の世界観に引き込む効果があることに気付いた。また、児童から「宮沢賢治はなぜそのような表現を用いることができたのかを追究したい」との声が挙がった。そこで、資料「イーハトーヴの夢」にある事柄と関連付けて読んだことで、改めて「やまなし」に出てくる言葉に着目した。そして、作者の独特な表現に気付き、効果について考えることにつながった。また、「やまなし」で水晶や金雲母などの鉱石が出てくるのが、作者の幼少期の生活経験と結び付いたり、五月と十二月の比較から、「『やまなし』という題名に作者の思いが込められているのではないかと推測したりするなど、作者の考え方・生き方が作品に反映されていると考えがもてた。さらに、初読の段階では、「内容がよく分からない。」「不思議な表現が多い。」と、感想を書いていた児童が、作者の考え方・生き方を知り、手がかりに着目して読み進めたことで、表現が読み手に具体的に様子を想像させたり、暗示性があることに気付いたりする姿が見られた。

「ぼくのブック・ウーマン」の学習では、中心人物についての行動、会話、様子、気持ちが表れている言葉や文が叙述に多くあることから、心情を想像したり人物像を捉えたりするを通して、中心人物であるカルの変容について考えをまとめた。心情を想像することや物語の全体を読み、複数の叙述を結び付けて想像することが、人物像を捉えられることにつながると8割以上の児童が気付き、まとめることができていた。また、中心人物の変容について考えて、友達と交流する中で、「読み手にも本をたくさん読んでほしいのではないかと」、「本を読める環境にいることのありがたさを伝えなかったのではないかと」と考えるなど、物語のメッセージ性について考える児童の姿も見られた。

このように、児童は様々な文学的文章を読むことで、疑問やみんなで話し合いたいことに対する考えをもてるように「手がかり」、「読み方」に沿って読むことに慣れてきている。また、自分で決めた「手がかり」、「読み方」を基に、人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えたり、人物像を想像したり、表現の効果について考えたりできるようになってきた。本単元では、小学校生活6年間で身に付けてきている読み方を最大限に発揮し、物語の全体像を具体的に想像することにつなげていきたい。

※1「読み方」 学習課題に即してどのように読んでいけばよいか考えること

※2「手がかり」 着目する叙述

※3「まとめ方」 学習課題に対して読み取ったことをまとめること

## (2) 学習材について（学習材観）

本学習材は、中心人物である太一の少年期から青年、壮年になるまでの生涯が描かれた作品である。これまでに学習した文章と異なり、長い時の経過において、中心人物である太一の成長が描かれているので、太一が成長する過程での心情の変化を文章全体から捉えることは欠かせない。子どもの頃から父の姿を見て、漁師になると決めた太一が、様々な経験を通して、やがては村一番の漁師であり続けるようになった。その過程で起こる父や与吉じいさの死、クエとの対峙といった出来事や、太一の考え方や生き方に影響を与えた人物の言動や様子が豊かに表現されている。そのため、本学習材では、登場人物や場面設定、個々の叙述などから太一の考え方や生き方について考え、複数の叙述を関係付けて読むことで、物語の全体像を具体的に想像することができる。また、本学習材には、太一の成長に関わる人物の言動や太一がクエと対峙する場面での細かな描写表現、瀬の主であるクエの目を表す色彩表現などの優れた叙述が、作品の様々なところに散りばめられている。

そこで、以下の叙述を関係付けながら作品を読むことで、周りの人物の影響を受けながら成長していく太一の様子や物語の全体像を具体的に想像できると考えた。

- ・ 太一に影響を与えたそれぞれの人物の思い・生き方や考え方を象徴する言葉、会話
- ・ 太一の思いにつながる描写
- ・ クエ（瀬の主）を表す描写
- ・ 太一がクエと対峙する場面での行動描写や色彩豊かな情景描写

前述の特性を踏まえ、太一の行動、会話や様子、父や与吉じいさの行動や言葉、海やクエ（瀬の主）と対峙する場面を描く情景描写や比喩表現などにも着目し、複数の叙述を結び付けて想像することで、物語の全体像を豊かに捉えることができるように指導する。また、少年時代の太一が考えたことを想像することは、同年代である児童にとっても重なるものがあるだろう。だからこそ、心情を寄せて考えたり、自分を投影したりすることにつながっていくことが考えられる。児童が「海の命」を読んで感じた疑問やみんなで話し合いたいことは、いずれも「『海の命』とは何か。」ということを考えることにつながっていく。そこから、想像したことを基に、「海の命」から受け取るメッセージについて考えられるようにする。物語を読む過程で、叙述と自分自身をつなげながら、自分が登場人物であればどのように感じ、どのように考えるかを振り返り、内省的に捉えることにもつなげていきたい。

## (3) 単元について（単元観）

本単元は、小学校生活最後の文学的文章である。本単元に入るまでに、これまで学習した文学的文章に触れられる機会を設け、既習の読み方を生かすことができるようにする。そして、物語の全体像を具体的に想像することで、「海の命」からメッセージを受け取ることにつなげたい。

そこで、単元名を「物語の卒業旅行 「海の命」 からメッセージを受け取ろう ～読みの計画を立て、太一の物語の世界をとらえて～」とした。既習の「手がかり」、「読み方」を自分で決定し、主体的に文学的文章の学習や日々の読書活動に取り組むことが、読むこと部の研究主題「自立した学習者を育てる読むことの指導」につながると考えた。単元に入るまでに、6年間で学習した文学的文章をいくつか振り返る時間を設ける。成長した今、新たな読み方を習得し既習の文学的文章を読み直すことでこれまでにない気づきが生まれ、物語からメッセージを受け取ることにつながり、自身の成長を感じられるだろう。また、「海の命」の学習が始まるまでに児童がいつでも既習事項について思い出したり振り返ったりできるように、これまでに読んだ経験のある文学的文章を提示しておく。

第一次では、小学校生活最後の文学的文章の学習であることを児童と共有し、初めにこれまで学んできた、「読み方」について確かめる。特に、本単元の重点指導事項となる物語の全体像を具体的に想像することについては、第5学年「たずねびと」の学習を振り返り、物語全体を読み、登場人物や関係性、場面設定、心情の変化等を捉えることで、あらすじだけでなく、内容（何が書かれているか）と表現（どのように描かれているか）の両面に着目し、物語の世界を具体的に想像して学習したことを振り返る。さらに本単元では、物語の全体像を捉えることで、「海の命」から受け取ったメッセージについて考える。初読後は、印象に残ったことや疑問、どう読んでいきたいかをまとめる。学習材を初めて読んだときの印象に残ったことや疑問などは、学級で学習課題を設定する際に活用する。物語を読み進める中で疑問を解決することが、学習課題に対する考えをもつことにつながっていく。また、既習を振り返り「海の命」をどのように読んでいきたいかを問うことで、学習の見通しをもてるようにする。一人一人が、疑問に感じたことやみんなで話し合いたいことを出し、そこから学習課題を設定する。学習計画を立てるときには、自分が解決したい疑問やみんなで話し合いたいことについて考えをもつことができるように、「手がかり」、「読み方」を考えて設定することで、目的をもち読みすすめることができるようにする。そ

のうえで、読み取ったことや想像したことを整理する「まとめ方」(まとめシート)を選択したり、自分で「まとめ方」を考えたりすることで計画を立てていく。

第二次では、第一次で立てた学習計画を基に、疑問やみんなで話し合いたいことについて考えをもてるように、本文を丁寧に読み解いていく。全文シートを用いることで、物語の文章全体から内容を捉えやすくしたり、物語がすすむにつれて、登場人物の考え方の変容や成長に気付いたりできるようにする。疑問やみんなで話し合いたいことにつながる「手がかり」にサイドラインや囲みを付けながら読み進める。叙述から想像したことや考えたことなどをまとめシートに整理することで、太一の生き方・考え方や周りの人物との関係性などについて、根拠をもって捉えられるようにし、物語の全体像を具体的に想像できるようにする。一人一人が、疑問やみんなで話し合いたいことに対する考えをもつ過程で、父や与吉じいさの言葉の意味について考えたうえで、共有する時間を設け、学習課題の解決に導く。そして、学習課題として設定した「海の命」から受け取ったメッセージを自分の言葉で表現する。自分自身の考えや経験と結び付けて読み返し、主人公と比較して考えたり、自分のことを振り返ったりするなど、内省的に捉える力にもつなげたい。

本単元の学習後は、身に付けた物語の全体像を具体的に想像する力を生かし、自分の読書活動につなげたり、下級生に本を紹介するポップを作成したりするなどして、学びを自覚できるようにする。

#### 4 研究主題に迫るために(多摩地区研究会読むこと部)

都小国研読むこと部の提案を基に、多摩地区読むこと部では、「自立した学習者」とは、「自身のもつ『言葉による見方・考え方』を働かせながらすすんで学習課題に対する自分の考えを深め、身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする児童」と捉えた。児童自身が単元で身に付けたい力を意識しながら、言葉への自覚を高めることが出来るように以下の点を工夫した。

(1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

##### a 既習事項の振り返り

児童が本単元で身に付けたい力を自覚し、主体的に学習へ向かえるようにするため、学習材に出会う前に、「物語の卒業旅行」と題し、小学校で学んできた言葉の力(指導事項)を全て身に付けた6年生の今、改めてそれぞれの作品を振り返る中で、当時は想像するに及ばなかった作品の全体像(各作品に込められたメッセージ性)についても話題に挙げることで、本単元で目指す学習の方向性を児童自身がイメージできると考えた。

##### b 学習計画作成に向けた3つの柱の提示と学びの蓄積の視覚化

児童が学習課題の解決に向けて主体的に学習へ取り組めるようにするため、まず、これまでに学習してきた文学的な文章での学びを一覧表として提示し、学びの蓄積を視覚化した。自分がどのような「読み方」や「手がかり」を用いて読みを深めてきたのかを振り返ることで、児童はこれまでの学習経験を基に、本単元で生かすべき視点を自覚することができると考えた。

その上で、既習の3つの柱である「読み方」「手がかり」「まとめ方」から、自分が活用したい視点を決めて、学習計画を立てる時間を設けた。

##### c 読みを自己調整する学習過程の工夫

第1時と第2時の間に一週間程度の時間を設け、児童が学習材を繰り返し読み返す時間を確保した。自分がどのように読み進めたいのかを意識しながら読み返すことで、学習の見通しをもたせることをねらいとした。また、第1時で考えた「疑問」や「話し合いたいこと」を見直し、必要に応じて読みの方向性を調整できるようにした。さらに、自分で立てた学習計画に沿って読み進める中で、「疑問」を解決するための「読み方」や自分の「読み方」に合った「手がかり」を追加、修正しながら学びを自己調整できるようにした。

(2) 学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。(確かにする、広げる、高める、深める、などを含む)

##### a 他の児童の疑問・読み方がわかる表の提示

黒板に、児童それぞれの「疑問」と「読み方」を一覧にした表を提示し、誰がどのような視点で学習材を読もうとしているのかを一目で確認できるようにした。この表を共有することで、交流の際に、同じ「疑問」をもつ友達がどのような「読み方」で学習計画を立てているのか把握しやすくなる。また、自分とは異なる視点や読み方に触れることで、児童が自らの考えを確かにしたり、広げたりすることにつながると考えた。

b 学習成果の価値付けを行う

個別学習の時間に、ねらいに即した価値のある児童の学習の過程（ノート・成果物）を教師が選定し、全体交流の場で意図的に指名して紹介するようにした。学級全体でその内容を整理分析し、教師が価値付けを行うことで、本時のねらいがどのように具現化されているのかを児童が具体的に捉えられるようにする。また、全体交流後に加筆修正の時間を設けることで、自らの考えを確かにし、広げることができると考えた。

(3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

6年生にとって最後の文学的な文章であることを踏まえ、本単元で身に付けた力や今までの国語科の学習で身に付けた力をどのように生活の中で生かしていくのかについて考える時間を他教科とも連携して設定した。このことによって、児童自身が獲得してきた言葉の力を再認識し、具体的な活用法を想像できるようにした。

a 国語科学習の場

これまでに獲得してきた読みの力を活用して、学習課題を解決するために、自分で学習計画を立て、叙述を基に物語の全体像を捉える活動。この学びが、中学校の国語科の指導内容である作品全体の意味や主題を考えることにつながると考えられる。

b 学校生活の場

卒業に向けた取組として総合的な学習と関連付け、本のおもしろさを全校に広げていく取り組みの一つとして、作品から受け取ったメッセージを基に、図書室の本のポップや帯を作成し、本の魅力を伝える活動。

c 日常生活の場

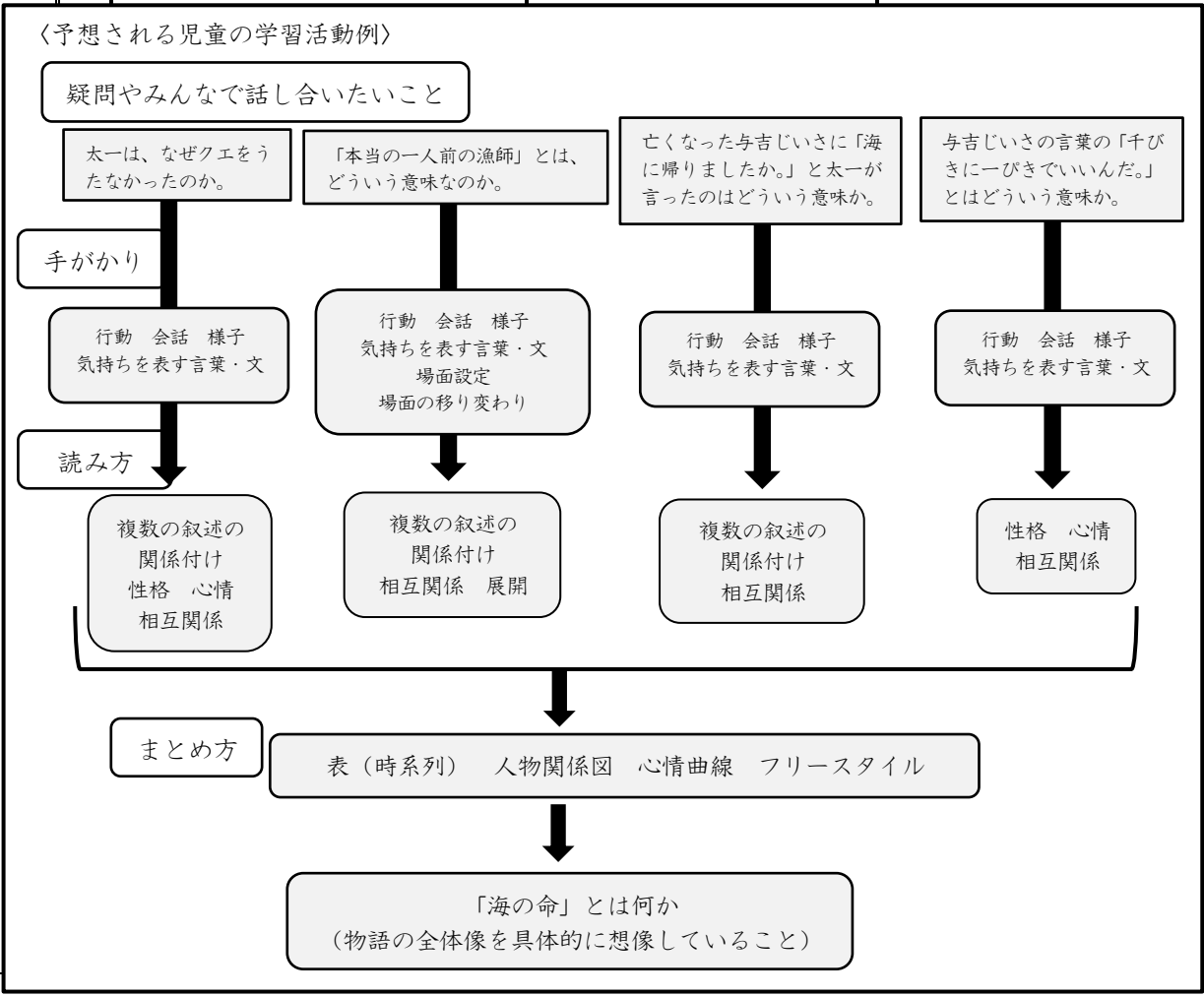
日常の読書において、内省的に捉える力を他の物語作品でも活用することによって、自分の読書活動を広げる活動

これらの取組を通して、児童が自らの言語生活を豊かにし、学んだ力を日常生活へと主体的に生かしていく姿を目指した。

5 単元計画（本時2/全7時間）

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
第一次	1	<p>1 これまでに学習してきた文学的文章について振り返る。</p> <p>2 題名について考える。</p> <p>3 「海の命」の全文を読み、以下の観点についてまとめる。</p> <div data-bbox="320 719 766 853" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①印象に残ったこと ②疑問やみんなで話し合いたいこと ③どのように読んでいきたいか</p> </div> <p>4 印象に残ったことを交流し、内容の大体を捉える。 ・時、場所、登場人物 ・太一と周りの人物の関係</p>	<p>○既習の読み方を確かめ、さらに伸ばしたい力や生かしたいものを自覚できるようにする。</p> <p>○題名からイメージするものを挙げたり、話を想像したりすることを促す。</p> <p>○児童の印象に残ったことから、登場人物を確かめ簡単に人物関係を捉えられるようにする。</p> <p>○2時までには、家庭学習や朝学習で読む時間をとり、内容の大体を理解したり、意味の分からない言葉を調べたりする時間を設ける。</p>	
	2 本時	<p>1 前時の学習を振り返り、一人一人がもった疑問から学習課題を設定する。 (疑問やみんなで話し合いたいことの例) ・太一は、なぜクエをうたなかったのか。 ・「海の命」とは何か。 ・与吉じいさの言葉の「千びきに一びきでいいんだ。」とはどういう意味か。 ・亡くなった与吉じいさに「海に帰りましたか。」と太一が言ったのはどういう意味か。 ・「本当の一人前の漁師」とは、どういう意味なのか。 ・太一にとって、海とはどのようなところなのか。</p>	<p>○児童の疑問やみんなで話し合いたいことを整理する中で、「海の命」とは何かを全体で考えることが、一人一人の疑問やみんなで話し合いたいことに対する考えをもつことにつながることを確かめ、学習課題を設定する。</p>	
		「海の命」からメッセージを受け取ろう		

		<p>2 自分の疑問やみんなで話し合いたいことを確かめ、考えがもてるように学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み方</li> <li>・手がかり</li> <li>・まとめ方</li> </ul> <p>3 自分で立てた学習計画をペア、少人数で交流する。</p> <p>4 学習計画を全体で共有する。</p> <p>5 学習を振り返り、第二次の見直しをもつ。</p>	<p>○第二次の学習につながるように、既習内容について振り返るように促す。</p> <p>○疑問やみんなで話し合いたいことが同じ、似ている人と交流することを促す。友達の考えを聞き、確かめたり必要に応じて取り入れたりする。</p> <p>○自分の疑問に対して、読み方や手がかりが適しているかを見直し、必要に応じて適宜加筆修正してよいことを確認する。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 学習シート 観察 「読むこと」において、作品の全体像を捉えるために、人物の心情の移り変わりや性格などの手がかりとなる叙述や、具体的に作品を想像する読み方を関係付けて学習計画を立てているかの確認。</p>
第二次	習得	<p>3 1 自分が立てた学習計画を基に、疑問やみんなで話し合いたいことに対する考えをもてるように、読み進める。</p>	<p>○自身の疑問を考える中で、他の疑問についても複合的に考えると、学習課題の解決につながることを確かめる。</p>	



4

- 2 疑問やみんなで話し合いたいことについて考えをもつうえで、重要な叙述を明らかにして、話し合う。
- ・同じ疑問で読み方の異なるグループを作り、考えを話し合う。
  - ・友達の考えを必要に応じて取り入れて、まとめシートに加除修正する。

5

- 3 整理した太一の生き方・考え方や周りの人物からの影響、物語の全体像や作品全体を通して読み取ったり、想像したりしたことなどから、疑問やみんなで話し合いたいことに対する自分の考えをもち、書き表す。

【学習の進め方】

- ・本文を読み、手がかりに印を付ける。(ライン、囲み)
- ・印を付けた叙述同士を関係付けながら、太一の心情や生き方、考え方などを想像する。
- ・叙述や想像したことを疑問と関係付けながら、自分で決めたまとめ方で整理する。

【個の学びの例】

- ・自分が手がかりをもとに想像したことを整理したまとめシートや本文の叙述を読み直し、太一やその周りの人物の人物像や物語の全体像を捉える。
- ・叙述や捉えた人物像や物語の全体像から、自分の考えをまとめる。

○読みとる際は、全文シートに自分が決めた手がかりを基に、ラインを引き、まとめシートに整理する。

○必要に応じて友達と考えを伝えたり相談したりして、自分の読みを振り返る。適宜加除修正して、自分の読みを調整できるようにする。

○読み進める中で、疑問に対する気付きや分かったことがあれば、全文シートやまとめシートに書き足すようにさせる。

○児童の学習進度を見ながら、話し合うタイミングを調整する。

○父の「海のみぐみ」、与吉じいさの「千びきに一びきでいい」の会話について、生き方・考え方から、どのような思いが込められているかを考えさせて、話し合うようにする。

【全文シート】

作品全体を俯瞰して読み、気付いたことを書き込めるようにした本文のシート

【まとめシート】

読み取ったことや疑問について考えたことなどの思考を整理する学習シート

【知識・技能①】

全文シート

まとめシート 発言

瀬の主を表す比喻表現や、太一が瀬の主と対峙している場面を表す言葉や文などから、比喻や反復などの表現の工夫に気付いているかの確認。

【主体的に学習に取り組む態度①】

まとめシート・発言

物語の全体像について、場面の移り変わりや結び付けながら、すすんで具体的に想像し、自分で立てた学習計画に沿って読み、まとめた意見を伝え合おうとしている。

第二次	探究	6	<p>1 疑問やみんなで話し合いたいことについて考えたことなどを基に「海の命」とは何かを考え、まとめシートに整理する。</p> <p>2 「海の命」とは何か、考えたことを話し合う。          ① 疑問やみんなで話し合いたいことが同じ人と          ② 疑問やみんなで話し合いたいことが違う人と</p> <p>3 学級で共有する。</p> <p>4 学習を振り返る。</p>	<p>○グループは、同じ疑問やみんなで話し合いたいことの人で、異なる読み方の児童同士と話し合えるように意図的に組む。</p> <p>○まず、疑問やみんなで話し合いたいことが同じ人と共有し、読み方や感じ方の違いを明らかにする。次に、疑問やみんなで話し合いたいことが違う人と共有することで、お互いの考えのよさを認め合えるようにし、自分にない考えを取り入れたりする。</p> <p>○「海の命」から受け取るメッセージについてつながりそうなことを意識させる。</p>	<p>〔思考・判断・表現②〕  <u>まとめシート・観察</u>          「読むこと」において、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方を捉えたり、場面設定や場面の移り変わりを捉えたりして、物語の全体像を具体的に想像しているかの確認。</p>
		7	<p>1 「海の命」から受け取ったメッセージについて話し合う。          ・各自が感じ取った、物語が自分に語りかけてきたことについて、まとめる。</p> <p>2 学級で交流する。</p>	<p>○「海の命」とは何かについて、物語の全体像を具体的に想像する中で、明らかになったことから「海の命」から受け取るメッセージについて考えるようにする。</p> <p>○自分自身の考えや経験と結び付けて読み返し、主人公と比較して考えたり、自分のことを振り返ったりすることを確かめ、内省的に捉えられるようにする。</p>	<p>〔思考・判断・表現③〕  <u>まとめシート・発言</u>          「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを整理して表現したり、広げたりしているかの確認。</p>

## 6 本時の学習（本時2/全7時間）

### (1) 本時のねらい

物語の全体像を具体的に想像することができるようにするために、これまでの学習を振り返りながら、自分が解決したい疑問に合う「読み方」、「手がかり」を考え、学習計画を立てることができる。

### (2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時の学習を振り返り、一人一人がもった疑問から学習課題を設定する。</p> <p>① 一人一人が疑問やみんなで話し合いたいことを考える。</p> <p>② 疑問を学級で出し合う。</p>	<p>○一人一人の疑問やみんなで話し合いたいことに対する考えをもつことは、「海の命」とは何かを考えることにつながることを確かめ、学習課題を設定する。</p>	
<p>〔疑問やみんなで話し合いたいこと 例〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太一は、なぜクエをうたなかつたのか。</li> <li>・ 「海の命」とは何か。</li> <li>・ 与吉じいさの言葉の「千びきに一びきでいいんだ。」とはどういう意味か。</li> <li>・ 亡くなった与吉じいさに「海に帰りましたか。」と太一が言ったのはどういう意味か。</li> <li>・ 「本当の一人前の漁師」とは、どういう意味なのか。</li> <li>・ なぜ、太一は瀬の主をうたなかつたことを生涯だれにも話さなかつたのか。</li> <li>・ 太一にとって、海とはどのようなところなのか。</li> </ul>		
<p>③ 疑問から学習課題を設定する。</p>		
<p>〔学習課題〕 「海の命」からメッセージを受け取ろう</p>		
<p>2 本時のめあてを確かめる。</p>		
<p>学習課題に対する考えがもてるように、読みの計画を立てよう。</p>		
<p>3 自分の疑問やみんなで話し合いたいことを確かめ、考えがもてるように学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み方</li> <li>・ 手がかり</li> <li>・ まとめ方</li> </ul>	<p>○疑問に対して、どのように読んでいけばよいか(読み方)を考え、そのために、どんな叙述に着目(手がかり)したらよいか、見通しをもたせ、それに合う整理の仕方(まとめ方)を決定することを促す。</p> <p>○疑問やみんなで話し合いたいこと、読み方、まとめ方を一覧で把握できるように表に整理する。</p>	
<p>疑問やみんなで話し合いたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太一は、なぜクエをうたなかつたのか。</li> <li>「本当の一人前の漁師」とは、どういう意味なのか。</li> <li>亡くなった与吉じいさに「海に帰りましたか。」と太一が言ったのはどういう意味か。</li> <li>与吉じいさの言葉の「千びきに一びきでいいんだ。」とはどういう意味か。</li> </ul> <p>読み方</p> <p>性格 心情 相互関係 複数の叙述の関係付け 展開 言葉の別の意味、暗示性</p> <p>手がかり</p> <p>行動 会話 様子 気持ちを表す言葉、文 場面設定 場面の移り変わり</p> <p>まとめ方</p> <p>表(時系列) 人物関係図 心情曲線 フリースタイル</p>		

<p>4 自分で立てた学習計画をペア、少人数で交流する。</p> <p>5 学習計画を全体で交流する。</p> <p>6 本時の学習の振り返りをする。 ・疑問やみんなで話し合いたいことに対して、読み方を決めた理由を書く。</p>	<p>○読み方に困っている児童には、既習の文学的文章の読み方を確かめ、決定できるようにする。</p> <p>○疑問やみんなで話し合いたいことが同じ、似ている人と計画を交流できるようにする。交流では、自分が決めた読み方が考えをもつことにつながっていきそうかを確かめ、友達が決めた読み方で納得したことを基に加除修正し、自分の学習計画に生かせるようにする。</p> <p>○自分の疑問に対して、読み方や手がかりが適しているかを見直し、必要に応じて適宜加筆修正してよいことを確認する。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 学習シート・観察 「読むこと」において、作品の全体像を捉えるために、人物の心情の移り変わりや性格などの手がかりとなる叙述や、具体的に作品を想像する読み方を関係付けて学習計画を立てているかの確認。</p> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・物語の全体像を具体的に想像するために、疑問やみんなで話し合いたいことに合う「手がかり」、「読み方」を考え、学習計画を立てている。</p>
--	--	--

(4) 本時の板書計画

物語の卒業旅行  
海の命 立松 和平

学習課題  
「海の命」からメッセージを受け取る

学習課題に対する考えがもてるように、読みの計画を立てよう。

疑問	読み方
----	-----

疑問やみんなで話し合いたいこと、読み方、まとめ方を表に整理したもの。  
学習計画を立てた児童からネームプレートを貼る。

一、学習課題の設定  
二、読みの計画を立てる  
個人↓少人数↓全体  
三、ふり返り  
四、計画に沿って読む。

学習計画を立てるコツ  
クエを打たなかったこと  
「本当の一人前の漁師」

心情  
考えの変化を探ること  
与吉じいさの言葉  
関係性  
関係性↓誰との、どんなか  
読み進め考える

【読み方】  
心情 性格  
相互関係  
生き方・考え方  
表現の効果 展開  
メッセージ性  
複数の叙述の関係付け  
言葉の別の意味(暗示性)

【手がかり】  
行動 会話 様子 情景  
気持ちを表す言葉、文  
比喩(たとえ) 題名  
キーワード 場面設定  
場面の移り変わり

## 7 資料

(1) 第5学年、第6学年での文学的文章の学び一覧

	教材名	重点指導事項 第5学年、第6学年 C 読むこと(1)	読み方	まとめ方 ※全文シートを用いる
第五学年	銀色の裏地	・登場人物の相互関係(イ) ・登場人物の心情(イ)	・人物の相互関係 ・心情	・心情曲線 ・人物関係図 ・プロフィール
	たずねびと	・物語などの全体像(エ)	・全体像	・マップ ・見聞レポート ・フリースタイル
	やなせたかし アンパンマンの勇氣	・人物像(エ) ・考えの形成(オ)	・人物像	・年表 ・フローチャート
	大造じいさんとガン	・表現の効果(エ) ・人物像(エ)	・表現の効果 ・人物像	・日記 ・時系列
第六学年	帰り道	・登場人物の相互関係(イ) ・登場人物の心情(イ)	・心情 ・人物の相互関係	・心情曲線 ・時系列
	やまなし	・表現の効果(エ) ・共有(カ)	・表現の効果 ・作者の考え方・生き方 とつなげる	・時系列 ・表 ・絵と吹き出し
	ぼくのブック・ウーマン	・登場人物の心情(イ)	・気持ちの変化 ・人物像	・心情曲線 ・フリースタイル
	海の命	・物語などの全体像(エ)	・全体像	・人物関係図 ・フリースタイル

(2) 教材分析表

①個の疑問を見付ける学習過程

場面	手がかり (行動、会話、様子、情景、比喩、 <b>色彩表現</b> ) 太一の人物像につながる 海に関わる	読み方 (複数の叙述の関係付け 性格 心情 相互関係 展開 生き方・考え方) 児童の疑問やみんなで話し合いたいことの例	疑問に対する考えから学習 課題につながりそうなこと
題名		・「海の命」とは何か。	
一 【太一、父、クエ】 漁師を目指す太一、父の死	<p>【太一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父もその父も、その先ずと顔も知らない父親たちが住んでいた海</li> <li>・「ぼくは漁師になる。おとうといっしょに海に出るんだ。」はばからなかった。</li> </ul> <p>【おとう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「海のめぐみだからなあ。」</li> <li>・不漁の日が十日続いても、父は少しも変わらなかった。</li> <li>・父はローブを体に巻いたまま、水中で事切れていた。</li> </ul> <p>【瀬の主(クエ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光る<b>緑色</b>の目</li> </ul>	<p>【太一】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け継がれている海 継承</li> <li>・おとうへの憧れ、一緒に漁をしたい、自分もそうなりたいという強い思い。</li> </ul> <p>【おとう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海への感謝、自慢することはない、不漁が続いても変わらない。</li> </ul> <p>・クエを獲る必要があったのか。功名心、手柄、一人前の漁師であることを示したかったのではないか。/ただ、人に自慢するためではなく、自分の強さを確かめ、力を自分に示したかった。(場面 六)</p> <p>【瀬の主(クエ)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父との戦いはあったものの、落ち着きがあるように見えたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先祖代々受け継がれる海である。</li> <li>・海と<u>ともに</u>生きている。</li> <li>・めぐみをもたらす海であるが、父の命を奪った海でもあること。</li> <li>・与吉じいさは「千びぎにーびぎ」に対して、父はめぐみであると感謝の思いをもったうえで、獲れるものは全て獲る思いだったのか。(場面 五)から、父がたくさん生き物を獲っていたことが考えられる。</li> </ul>

<p>二 【太一、与吉じいさ】 与吉じいさに弟子入り</p>	<p>【太一】 ・中学校を卒業する夏、太一は与吉じいさに弟子にしてくれるようにたのみに行った。 ・無理やり与吉じいさの弟子になったのだ。 ・なかなかつり糸を握らせてもらえなかった。</p> <p>【与吉じいさ】 ・「…もう魚を海に自然に遊ばせてやりたくなくなる。」 ・「千びきに一びきでいいんだ。千びきいるうち一びきをつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」</p>	<p>【太一】 ・子どもの頃の漁師になりたい思いは変わらない。父を最後にもぐり漁師がいなくなった(場面 四)ため、もぐり漁師の弟子にはなれなくても父が死んだ瀬で漁師になりたい。 ・与吉じいさの中で何かつり糸を握ってもよい条件があるのか。</p> <p>【与吉じいさ】 ・獲り過ぎてもよくない。 ・「千びきに一びきでいい」とはどういうことか？ ・生きていく中で必要な分だけを獲ること。欲張らない、獲り過ぎない。海を守り続けること。</p>	<p>・父への憧れから漁師になりたい。 ・少しずつ漁師として成長し、太一にとって<u>海が生きる場</u>となっていく。</p> <p>・<u>海のめぐみをもたらすことに対する感謝、海を受け継ぐこと。</u></p>
<p>三 【太一、与吉じいさ】 太一の成長、与吉じいさの死</p>	<p>【太一】 ・「海に帰りましたか。与吉じいさ、心から感謝しております。おかげさまで<u>ぼくも海で生きられます。</u>」 ・悲しみがふき上がってきたが、今の太一は自然な気持ちで、頬の前に両手を合わせることができた。父がそうであったように、<u>与吉じいさも海に帰っていったのだ。</u></p> <p>【与吉じいさ】 ・「自分では気づかないだろうが、お前は<u>村一番の漁師</u>だよ。太一、ここは<u>おまえの海</u>だ。」</p>	<p>【太一】 ・「海に帰りましたか。」とは、どういうことか。 ・与吉じいさから海での生き方を教わった。感謝の思い。 ・悲しみはあっても、与吉じいさの死を受け止めている。</p> <p>・漁師の生きるところとして海は最期帰るところなのか。命を授けるところか。 ・太一の漁師としての成長</p>	<p>・与吉じいさのおかげで、<u>海で生きられるようになった。</u> ・漁師としての成長が死を受け止めることにもつながった。 ・父、与吉じいさが帰るところ、<u>海で生きること、海の命。</u> ・<u>海を生き、海に生かされるもの。</u></p>
<p>四 【太一、母】 母と太一</p>	<p>【太一】 ・太一は、あらしさえもはね返す屈強な若者になっていたのだ。太一は、そのたくましい背中に、母の悲しみさえも背負おうとしていたのである。 ・母が毎日見ている海は、いつしか太一にとっては<u>自由な世界</u>になっていた。</p> <p>【母】 ・「おまえが、おとうの死んだ瀬にもぐると、いつ言い出すかと思うと、私はおそろしくて夜も眠れないよ。おまえの心の中が見えるようで。」</p>	<p>・太一の成長や強さ ・母の不安、心配を押しつけて、父の死んだ瀬に向かっていく強さ、自信</p> <p>・海への恐怖心、父のように死んでほしくはない。</p>	<p>・幼い頃からの成長、父や与吉じいさによって強く、村一番の漁師になった成長が表されている。</p> <p>・母の会話があることで、太一の成長や強さが一層表されている。</p>
<p>四 【太一】 父の海</p>	<p>【太一】 ・はだに水の感触がこちよい。海中に棒になって差しこんだ光が、波の動きにつれ、かがやきながら交差する。耳には何も聞こえなかったが、太一は壮大な音楽を聴いているような気分になった。とうとう、<u>父の海</u>にやって来たのだ。</p>	<p>・父の死んだ瀬に対して思いを馳せている。 <b>表現</b></p>	<p>・太一にとって、父の海は特別な場所だっただろう。</p>

<p>五 【太一 瀬の主 (クエ)】</p> <p>太一と瀬の主との対峙</p>	<p>(父に関する叙述) ・父を最後にもぐり漁師がいなくなったので、アワビもサザエもウニもたくさんいた。</p> <p>【太一】 ・追い求めているうちに、不意に夢は実現するものだ。 ・興奮していながら、冷静だった。 ・太一は永遠にここにいられるような気さえした。 ・この大魚は自分に殺されたがっているのだと、思ったほどだった。 ・この魚をとらなければ、<u>本当の一人前の漁師</u>にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。 ・水の中で太一はふっとほほえみ、口の中から銀のあぶくを出した。もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。 ・「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」 ・こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。<u>大魚はこの海の命だ</u>と思えた。</p> <p>【瀬の主 (クエ)】 ・青い宝石の目 ・青い目 ・ひとみは黒いしんじゅのよう ・刃物のような歯が並んだ灰色のくちびる ・岩そのものが魚のよう ・おだやかな目</p>	<p>・激しい潮の流れの中でも、もぐり漁師として活躍していた。/獲れるだけ獲っていたのか。</p> <p>【太一】 ・瀬の主を追っていた。 ・追い求めてきたまぼろしの魚が目の前にいる興奮、漁師として成長したからこそ冷静さか。 ・太一の無数の思い。成長したからこそ現れる思い。 ・「村一番の漁師」と「本当の一人前の漁師」は、どうちがうのか。</p> <p>・瀬の主とおとうを重ね合わせて考えた。大魚の落ち着きと父が重なったのか。 ・太一は、なぜクエを打たなかったのか。 ・「海の命」とは何か。</p> <p>【瀬の主 (クエ)】 ・宝石、真珠など美しさ、まるで守り神や主という感じがある。 ・落ち着きや冷静さを感じさせる。</p>	<p>・与吉じいさの「千びきに一びき」の考え方とは異なる。</p> <p>・追い求めている→まぼろしの魚、村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主。</p> <p>・ずっと追い求めていた瀬の主と対峙でき、打てるという思いを抱いたが、自分の決めた生き方に従い打つことをやめた。 ・大魚=海の命、守らなければならぬ存在だと考えた。</p> <p>・瀬の主の細かな描写、太一の視点からそう見えている。</p>
<p>六 【太一、(おすめ、子ども四人、母)】</p>	<p>【太一】 ・太一は、村のおすめとけっこんし、子どもを四人育てた。男と女と二人ずつで、みんな元気でやさしい子どもたちだった。 ・村一番の漁師であり続けた。千びきに一びきしかとらないのだから、<u>海の命は全く変わらない</u>。 ・巨大なクエを岩の穴で見かけたのにもりを打たなかったことは、<u>もちろん太一は生涯だれにも話さなかった</u>。</p>	<p>・太一の子どものもやがて海で生きるのかもしれない。受け継ぐ、継承</p> <p>・与吉じいさの影響</p> <p>・どんなに獲れても、不漁でも決して変わる事のない父の影響、人に話し、周りから認められて満足するのではなく、自分の中でそっともつ思い。</p>	<p>・与吉じいさの教えを今も守り続ける。 ・「海の命」は変わらず守り続けるもの。 ・瀬の主を打ったわけではないから、一人前の漁師ではない。しかし、海の命を大切にできる漁師こそが本当の一人前の漁師ではないか。 ・自分の名誉や自慢よりも海が大切。 ・父の思いや教え、与吉じいさの考えや「海の命」を守ることにした。</p>

②海の命教材分析表（予想される児童の主な疑問を基に作成）

なぜ、太一はクエをうたなかつたのか。	「本当の一人前の漁師」とは、どういう意味なのか。	なぜ、太一は亡くなった与吉じいさに「海に帰りましたか。」と言ったのか。	与吉じいさの「千びきに一びきでいいんだ。」とは、どういう意味か。	児童の主な疑問
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇相互関係（太一と父）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉</li> <li>◇性格・心情（太一）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉</li> <li>◇複数の叙述の関係付け（クエの様子・太一・父）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇相互関係（太一と与吉じいさ）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉・文</li> <li>◇展開（太一が一人前の漁師になっていくまでの場面設定や場面の移り変わり）</li> <li>◇場面設定</li> <li>◇場面の移り変わり</li> <li>◇複数の叙述の関係付け（本当の一人前の漁師・海の命とは）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇複数の叙述の関係付け（父・与吉じいさ）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉</li> <li>◇相互関係（太一と与吉じいさ）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇性格・心情（父・与吉じいさ）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉・文</li> <li>◇相互関係（太一と与吉じいさ）</li> <li>◇行動・会話・様子</li> <li>◇気持ちを表す言葉・文</li> </ul>	<p>児童の主な疑問</p> <p>予想される児童の学び</p> <p>読み方</p> <p>◇手がかり</p>
<p>いくつかの疑問を複合的に考える</p>				
<p>C クエを父の命を奪った敵ではなく、父の「海のめぐみ」を大切に生きてきた生き方に影響を受け、このクエを海の命を受け継いできた存在と捉えたから。</p> <p>C 復讐の気持ちだけでクエを打つのではなく、海に生きて父や与吉じいさの思いを受け継ぎ、自分自身も海と共に生きていこうと心に決めたから。</p>	<p>C 「千びきに一びきでいいんだ。ずっとこの海で生きていけるよ。」与吉じいさのようなつり方をしていけば、ずっと海で漁師として生きていける。生き物の命をむだにしないということ。</p> <p>C 「自分では気づかないだろうが、おまえは村一番の漁師だよ。ここはお前の海だ。」と、村一番の漁師として認めてもらえたという意味だと思っ。</p> <p>C 村一番のもぐり漁師だった父を破った瀬の主をとらなければ本当の一人前の漁師になれないと太一は思っていた。しかし、大魚をこの海の命だと思つて瀬の主を殺さずにするんだ。与吉じいさから海に生きるものの命を大切にすることを太一は学んでいる。瀬の主をしとめるのをやめた瞬間、本当の一人前の漁師（海に生きるものの命を大切にすることが、本当の一人前の漁師だと気付いた。）になれた。</p>	<p>C 海でとつた魚を、おとうは「海からの恵み（与えてもらったもの）」と考え、大物をしとめてもじまんしなかった。与吉じいさも「千匹に一匹でいいんだ。」と言って、自分が生きていくのに必要な量しか魚をとらなかつた。太一は、尊敬し漁師として目標としていた二人から、海の恵みによって生かされているのだと、学んできたから、亡くなって自分たちの命の源である海に帰った（戻つていった）と考えたのではないか。</p>	<p>C 大物をしとめてもじまんせずに「海のめぐみだからなあ。」という父は、謙虚だと思う。与吉じいさが毎日、タイを二十びきつると道具を片付けるというのは信念があるから。父と似ている。</p> <p>C 太一がなかなかつり糸を、にぎらせてもらえなかつたのは、与吉じいさに認めてもらえてないから。まだ一人前の漁師ではないから一人前の漁師とはなんだろう。</p> <p>C 「千びきに一びきつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」と与吉じいさがつぶやくのは、太一がこれから一人前の漁師になり、ずっと漁師として生きていくために伝えたかった大切なことだから。海に生きる生き物の数は限られているので、取り続けるといつかいなくなってしまう。人間と共存していくための大切な知恵を教えたのだろう。</p>	<p>児童の読みの例</p>

【全体像】・・・「海の命とは何か」

- ・海で生きてきた祖父、父、太一とつながってきた命
- ・海が分け与えてくれるめぐみと、その恩恵を受けて生きる人々
- ・海が育てている命（海に生きる生き物の命は限られていて、海にいる生き物がいなければ人間は生きていけないから）
- ・代々受け継がれてきた海で生きる人々とその思い（自然の恵によって、人は生かされている）、またそのことに気付いた太一の成長

【作品「海の命」からのメッセージ】

- ・命は繋がっている。先祖代々から繋がってきた自分の命、人間の命を支えている海に生きる生き物など自然界の命、そのすべての命を大切にしてほしい。
- ・自分の周囲の人や代々受け継いできたものを大切に、自分の成長につなげてほしい。
- ・自分を支えてくれる周囲の人々の存在とそのことに対する感謝の思いを大切にほしい。
- ・自分の思いだけにこだわらず、周囲の人たちの考えにも耳を傾け、広い視野で物事をとらえることを大切にほしい。
- ・信念を曲げずに、夢をかなえるために物事をやり遂げることを大切にほしい。
- ・先祖から受け継ぐだけでなく、自分の子孫たちのことを考えて見直しをもつことの大切さに気付いてほしい。